

超臨界流体部会 第 17 回部会集会議事録

日時 平成 21 年 9 月 16 日 (水)

19:00~21:00

場所 ホテル広島ガーデンパレス

参加 64 名 内学生 6 名

船造俊孝部会長、開会を宣言。以下の議事進行は由井による。

報告事項

1. 第 8 回サマースクール

大島義人幹事より、概要が報告された。

2. 化学工学 <特集> 化学工学年鑑 2009

船造部会長、後藤元信幹事より、現状の経過報告がなされた。

3. 平成 21 年会員数・会員移動

船造部会長より現状説明があった。

4. 秋季大会シンポジウム報告

山田幹事より、第 42 回秋季大会シンポジウムについて、今回も多く発表と、3 件の展望講演があり、盛況であることが報告された。

古屋 学生賞審査方法検討委員会幹事より、学生賞選考の規定に関する説明があった。学会後に、学生賞検討委員会にて総括をする予定とのことであった。

5. 超臨界流体部会活動成果集 2008 (ワーキンググループ活動成果報告書 No.6)

山田幹事より、無事刊行された旨の報告と、とりまとめの先生方、執筆者の方々への御礼が述べられた。

6. 共催事業・関連国際学会

共催事業

MTMS09 について、田村幹事からもうじき開催とのアナウンスがあった。

Supergreen2009 について、阿尻幹事から概要説明があり、proceedings 締め切りは超臨界流体部会員に関しては、今月 (9 月) 中まで延ばすとのこと連絡があった。

関連国際学会

古屋幹事から AIChE annual meeting の熱物性セッションについて説明があった。

猪俣幹事から PPEPPD について説明があり、Abstract 締め切りは当初の予定から 9 月 30 日に延期されたとの説明があった。

阿尻幹事から ISHA2010 について説明があり、Abstract 締め切りは予定より大幅に伸ばす可能性があるとの説明があった。

審議事項

7. 共催事業の共催金拠出

船造部会長より、部会と共催している学会 MTMS09 と Supergreen2009 に、各 30 万円ずつ共催金を拠出する旨の説明があり、承認された。

8. H21 年度セミナー計画

船造部会長より、以下の説明があった。

- ・今年度の秋～冬にかけて、関東で「エネルギー・バイオマス」「材料」、関西で「材料」の講習会を行う予定であり、関西のセミナーに関しては、開催場所、講師の先生方、日程がほぼ確定した。
- ・今後の方針(案)として、材料、資源・エネルギー、バイオマス等の分野ごとに「気軽に講習会を」行えるようにし、各分野ごとのさらなる発展と、企業の研究者との連携がスムーズになることをねらいとする。
- ・参加者の負担を少なくするため、安価な講習会を行えるようにするのはどうだろうか？そのためには化学工学会と共催(講習会代が規定で決まる)ではなく、部会だけで講習会を設定するのがよい。ただし部会だけで講習会を行う場合は、窓口、予算管理、当日の受付等を全て部会でおこなう必要がある。
- ・参加者のための広報および連絡窓口として、①化学工学会誌に会告を掲載(掲載の2ヶ月前までの申し込みが必要)、②超臨界流体部会のメーリングリストおよびウェブページにて会告を掲載、③窓口は、部会ウェブページ(2009年現在、東先生が管理)または事務局宛の電子メールとする。
- ・次の関西(材料)、日大(材料)における講習会の講師謝金の案として、¥11,111(源泉徴収税¥1,111を含む)、成果報告集販売価格は¥4,000を予定している。

以上に関して、全て幹事会で承認が得られた。

9. 平成 22 年度活動計画

船造部会長より、今後の活動計画に関する簡単な説明があった。特に、以下の人選は次期部会集会までに選出を済ませ、年会にて決定する必要があるとの説明があった。

- ・2010 年度サマースクール担当者(材料 WG から)
- ・化学工学会第 43 回秋季大会のオーガナイザーと学生賞選考委員(選考委員のうち何名かは今年と同じ方が望ましい)

10. その他

- ・鈴木昇先生から、化学工学会関東支部大会が 2010 年 8 月 19～20 日に開催予定であり、宇都宮大学にてシンポジウムテーマの一つとして「特殊反応場(超臨界流体、プラズマ、マイクロ波等)の応用」(仮題)を検討中との説明があった。
- ・阿尻先生から、Supergreen2009, ISHA, ISSF にて学生賞やドクター賞があるので、日本からの若手参加者はぜひ挑戦してください、との案内があった。

報告、審議終了。幸田清一郎先生の乾杯により懇親会が開催された。

懇親会中、学生賞授与式と受賞者からのひとことが行われた。受賞者は以下の7名であった。

○ 基礎物性(敬称略)

P108 東京理科大 進藤洋一 薬剤-二酸化炭素系における融点の測定と構造相関

P109 東京理科大 古味慧 水/超臨界二酸化炭素用界面活性剤の探索と物性評価

P116 東北大 保坂直輝 Synthetic 法を用いた二酸化炭素+有機溶剤系の相平衡測定

○ 材料

P101 広島大 鳥本将宏 PGSS プロセス+追加ガスによるポリマーの微粒化プロセスの開発

P103 静岡大 新屋一馬 超臨界アルコールによる炭素繊維強化プラスチックの完全リサイクル

○ 反応

R103 東大院新領域 秋月信 金属酸化物触媒を用いた高温高圧水中における高級オレフィンの反応

R106 熊本大 川鍋宏明 超高压下の亜臨界および超臨界水中でのキシロース分解速度および反応機構

※懇親会参加者は、新屋君、保坂君、秋月君、川鍋君の4名であった。

※受賞者の研究内容等について、前回と同じく、部会ニュースレターにて、A4半ページ分程度で紹介していただくこととなった。

懇親会中、若手の研究者・技術者の方や企業の先生方から自己紹介・会社紹介をしていただいた。

懇親会の終了は、副部長の中川尚治氏(パナソニック電工)により閉められた。

以上